

都市再生整備計画(第2回変更)

ましこ たのちく
益子・田野地区

とちぎけん ましこまち
栃木県 益子町

平成30年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	市町村名	益子町	地区名	益子・田野地区	面積	560 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	--------

計画期間	平成26年度～平成30年度	交付期間	平成26年度～平成30年度
------	---------------	------	---------------

目標

大目標

地域資源を活かした産業の新たな拠点整備によるふれあいと賑わいのある地域づくり

小目標①

安全・楽しさ・美しさを実感できる地域における活力の拠点を形成する

小目標②

基幹産業である農業や観光を強化し、地域振興・活性化を図る

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【現況や状況】

・本町は県南東部、関東平野の北に位置し、面積は89.54km2、人口は約24,000人の町である。一級河川小貝川が町を南北に貫流し、その河岸の平野部が芳賀台地を形成する丘陵地帯からなる。町東部は八溝山系の山間地が連なり、南部は茨城県との県境に接した農村部が形成されている。

・本町の人口は、年齢別人口動態においても減少傾向が続いており、平成37年度の人口見通しでは人口が約21,000人、生産年齢割合は53.6%、高齢人口が37%を超え、高齢者を支える人口は1.34人と推計されている。

・本町の農業は米麦や園芸、畜産を主体とする町の基幹産業として発展してきたが、少子高齢化等による従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加、生産高の減少などにより、就労人口に占める割合は3割程度と農業を取り巻く現状は厳しい。

・本地区を通過する主要地方道つくば益子線は、北関東自動車道路の開通により、都市圏からの新たな交通が加わり、通行量の増加が見込まれる路線であるが、現状では陸路導線としての活用しかされていない。

・本地区とまちなかを結ぶ主要地方道つくば益子線バイパスが整備中であるが、当沿線には都市部にはない魅力ある地域資源を保有しているものの、それらを発信・活用する場所や道の駅の機能を有したサービスの提供の場も無く、町の玄関口として地域資源を活用した拠点づくりが望まれている。

・豊かな自然や伝統工芸品である益子焼などの地域資源を活用した都市との交流により、本地区を拠点とした地域の活性化を図る。

・益子町長堤地内を通過する主要地方道つくば益子線・県道西小埜真岡線を積極的に活用し、益子を訪れる人やものを増やす積極的な地域振興の場としての取り組みを推進する。

・町事業である道の駅の整備により、一般の通行者をはじめ広く道路利用者へのサービスが可能となり、農産物や加工品をはじめとする地元産物の販売や、地域資源を活かしたふれあいや交流の場を整備し、本計画の中心事業として位置づけ、観光人口増加を図り、町中心部への観光へ誘導し、町全体の活性化に寄与する。

・益子町、益子町議会をはじめ、地域から早急な地域振興施設と道路整備の要望がある。

課題

・地域資源や素材を活かす振興の場、また魅力ある地域情報の発信機能など多様な地域づくり活動を推進する場として、コミュニティの拠点となる施設整備を住民から求められている。

・益子町は焼き物の街として全国に知られ、観光産業が町の主要産業となっているが、当町を訪れる観光客は減少傾向にあることから、住民意識の醸成や地域資源を活かした町づくりが求められている。

将来ビジョン(中長期)

1. 「益子町総合振興計画」では産業を「産業が育ち、活力ある益子」と位置づけ、道の駅や交流施設の整備をはじめ、農業者が生産以外のさまざまな分野に主体的かつ総合的に関わることで魅力ある農業の振興を図るとしている。

2. 「ましこ道の駅交流施設基本構想報告書」では事業理念や事業目標を次のとおり定め、総合的な観点からの地域づくりを目指すこととしている。

事業理念 「信頼のあるものづくりと文化、そして地域づくり」

事業目標

①次世代につなぐべき益子の暮らしと営みに、共感・実感できる取り組みを提案する。

②ひとやものをつなぎ・育てる、にぎわいのあるまちづくりの場を提供する

③益子のくらしを発信し、人々が集う、活気のある環境を創造する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
催事イベントの開催	人	地域イベントの参加人数	地域コミュニティの推進を図り、地域の活性化を図る。	256	H24	400	H30
流動人口(観光人口)数	万人	流動人口(観光人口)数	当町を訪れる観光客は年々減少傾向にあり、観光ニーズも大きく変化している。観光ネットワークの推進により、減少傾向に歯止めをかける。	196	H24	200	H30

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・安全・楽しさ・美しさを実感できる地域における活力の拠点を形成する 地域づくりの拠点となる道の駅から地域の情報を収集・発信することで、地場産業や観光の活性化を図る。 地域振興施設を整備し、食の提案や新たな商品の開発、販路流通機能を確保することで、地域産業の活性化を図る。 (仮)地域交流館を整備し、農業を核とした地域おこしや地域コミュニティの場、都市・世代間、また異業種交流のスペースを設け、地域資源の活用や地域ブランドの企画・開発、商工業との連携など人とモノを繋ぎ、地域の活性化とコミュニティの醸成を図る。 地域住民の催事イベント開催等により、賑わいと活気のある場所を確保する。 地域が主体となった花のまちづくり(ヒマワリ、コスモス)の整備による景観形成や周辺農地を活かした体験型農業の実践などにより地域の活性化を図る。 ・基幹産業である農業や観光を強化し、地域振興・活性化を図る 道の駅整備に伴い、インフラ整備を行い、町の南部から流入が見込まれる観光客が観光中心地である中心市街地に円滑な移動ができるようにする。 また、中心地にある町の施設である陶芸メッセで企画展を実施し、地場産業の益子焼と観光の活性化を図る。	【基幹事業】 高次都市施設:地域交流館 【提案事業】 地域創造支援事業:地域交流ふれあい広場 まちづくり活動推進事業:地域プロデュース事業 まちづくり活動推進事業:地域ファンクラブ設置事業 事業活用調査:事業効果分析調査 【関連事業】 地域振興施設整備事業(農産物直売・レストラン) 道路事業(道の駅ましこ) 【基幹事業】 道路:町道6号 【提案事業】 地域創造支援事業:ましこ国際工芸交流事業 地域創造支援事業:まちづくり構想に関する調査 【関連事業】 地域振興施設整備事業(農産物直売所・レストラン) 道路事業(道の駅ましこ、つくば益子線バイパス) ましこ国際工芸交流館建築事業

その他

○事業期間中の管理について ・期間中の成果や効果が十分に図られるよう、地域住民で構成した「ましこ道の駅建設委員会」で検討を進めるとともに、行政は庁内横断的に事業の目的達成に向けた体制を図り、計画管理を進める。 ・(仮)道の駅ましこの維持管理及び経営体制の構築を進める。 ○事業終了後の継続的な活動について ・ましこ道の駅建設委員会の専門部会(地域づくり部会)を中心とした新たな組織を構築し、地域が主体となったまちづくりが図られるよう調整する。 ○その他 ・対象事業の進捗や効果の発現を把握し、今後の進捗に併せた事業への反映、評価等を行う。
--

交付対象事業費	584.9	交付限度額	233.9	国費率	0.40
---------	-------	-------	-------	-----	------

(金額の単位は百万円)

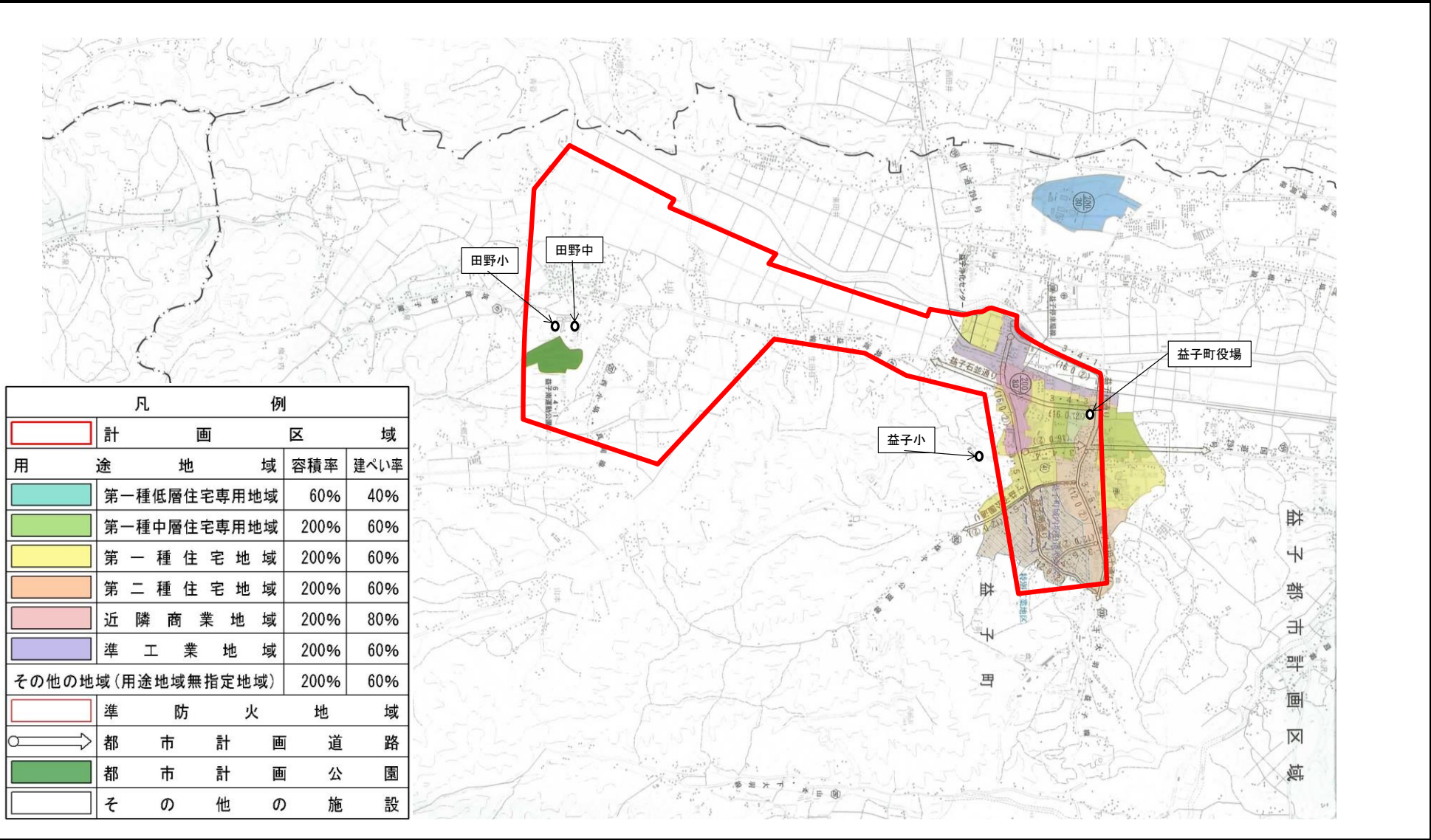
...Δ

...

[illegible]

都市再生整備計画の区域

益子・田野地区(栃木県益子町)	面積	560 ha	区域	益子、田野地区
-----------------	----	--------	----	---------



益子・田野地区(栃木県益子町) 整備方針概要図

目標	地域資源を活かした産業の新たな拠点整備による ふれあいと賑わいのある地域づくり	代表的な 指標	地域イベントの参加人数 (人)	256	(H24年度) →	400	(H30年度)
			流動人口(観光人口)数 (万人)	196	(H24年度) →	200	(H30年度)
			()	()	(年度) →	()	(年度)

